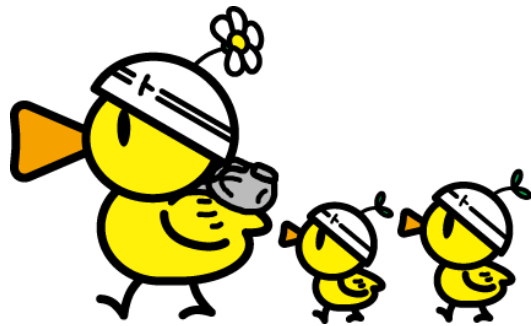


大手前高校防災通信

居安思危 ～その1～

居安思危 思則有備 有備無患

～ 安きに居りて危うきを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し ～
(出典「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」)



「備えあれば患いなし」という言葉はみなさんよく知っていると思います。実はこの言葉、元々は中国の故事に記されていた言葉で、前に「居安思危 思則有備」という言葉があり、それに続く言葉が有名な「有備無患（備えあれば患いなし）」です。

毎年、日本のあちこちで地震や台風、急な大雨などにより被害が出ています。昨年起きた大阪府北部を震源とする地震や台風 21 号での被害はみなさんもよく覚えておられると思います。世界に目を向けても、インドネシアでの地震やアメリカのハリケーンなど、自然災害についてのニュースを聞かない日はないほどです。

国連国際防災戦略のまとめによると、昨年世界で地震や津波、洪水などの自然災害で被災した人は約 6,177 万人に上り、その内死者は 10,373 人でした。国別被災者数では日本は約 160 万人で 9 位、死者数では 4 位と災害の重篤さが目立ちました。自然災害は人の命を脅かすだけでなく、その経済的な損失も大きなものがあります。アメリカの保険会社の調査では、昨年の自然災害による経済損失は約 2,250 億ドル（約 25 兆円）でした。中でも台風や大雨などの気象災害が約 96%（2,150 億ドル）を占めています。日本の災害では昨年の台風 21 号の損失額が世界第 4 位、7 月の西日本豪雨が世界第 5 位となっています。

現代は地球の活動期に入ったといわれています。また温暖化により気象現象もますます激化する可能性が高いといわれています。そのためこれからの時代を生きていく私たちは年々自然災害のリスクが高まると考えなければなりません。

これからこの通信を通じて様々な自然災害、危機事象についてみなさんと一緒に考え、災害時に適切に自らの安全を確保できる行動を取れるように学んでいきたいと思っています。

気持ちの防災力を高めよう！

日本の国土は南北に長く、その気候風土は変化に富んで、豊かな自然と人工的な街とが混在した国です。そのため季節ごとの気象に起因する災害、例えば夏の急激な大雨や台風による風水害、土砂災害や冬の大雪による雪害などが多く起こります。また、日本はプレートという硬い板状の岩盤の境界付近に位置し、多くの活断層があることから、地震が発生しやすい環境にあります。そのため日本は大昔から自然災害とともに生きてきました。

繰り返し起こった災害はたくさんの人の命や財産を奪ってきましたが、昔から人は災害から学び、様々な知恵や工夫を施し、自然とうまくつきあえるように努力してきました。先人が残した災害から暮らしを守るための知恵や工夫は、現代の私たちの暮らしの中にも生かされています。例えば、過去の災害の教訓を活かして防潮堤や堤防を整備したり、建物の耐震化を進めたり、安全を守るための法整備を施したり、昔の災害を物語にしたり、記念碑や災害遺構として目に見える形で残して、人々の心に防災の意識を持たせたり…。

1995 年 1 月 17 日に起きた阪神淡路大震災では大規模な建物の倒壊と火災で多くの犠牲者が出ました。被害範囲が広く、また、倒壊した建物が道を塞ぎ、緊急車両の到着が遅れたことから、近所の人たちが助け合って建物の下敷きになった人などを救出しました。2011 年に起きた東日本大震災ではその津波被害の甚大さから『想定外』という言葉が何度となく使われました。

ハード面の整備はとても大切ですが、それだけで被害を食い止めることはなかなか困難です。災害時には公助に加えて自助、共助がますます大切になります。そしてこれから先も必ず『想定外』は起こり得ます。一人ひとりが想定外が起こることを考えながら行動することで、被害は格段に減らすことが出来ます。

例えば、南海トラフを震源とする地震が近い将来（まさに今かもしれません！）必ず起きるとすることはみなさんも聞いたことがあると思います。大阪府の被害想定では最大で 13 万人もの犠牲者が出るとの予想ですが、建物の耐震化などのハード面の整備に加えて、迅速に適切な避難を全員がすることでその数を 1 万人程度にまで軽減できると試算されています。13 万人が 1 万人になるのです。

6 月 5 日には地震と火事を想定した避難訓練が行われます。地震が起きたときの行動について考え、実践する機会です。人は経験したことの無いことは咄嗟にすることが出来ないといわれています。ぜひ、真剣に考えて**実践**してみてください。そうすることで万が一のときでも一人ひとりが迅速に適切に避難をすることが出来るようになり、全校生徒 1,080 人が全員無事に生き延び、周りから逃げてくる人たちを助けられる人になれると思います。

6月5日は避難訓練です

避難訓練は何のために行うの？ イメージしてみよう！

1. 避難訓練の目的って何？

今回の避難訓練の先生向けの実施要項には「緊急事態に際して正しく通報すること、状況に応じて生徒を安全に避難誘導すること、消火の仕方を知ること」の3点について訓練することと書いてあります。つまり、避難訓練は生徒だけでなく、先生たちの訓練でもあります。今回の先生方の目的は上記の通りですが、これは先生の目的です。ではみなさんの目的は何でしょう？

先生の指導に基づいて迅速に安全に避難すること、これはまず必要です。でもみなさんはもう高校生です。先生の言ったことだけをするのでは不十分だと思います。避難訓練について自分なりに考えてプラスアルファの行動を取ってください。そのために考えるべきポイントは

- ① 今回の避難訓練はなぜ避難するのですか？想定は何でしょう？
- ② その災害が起きたときにはどのような被害が予想できるでしょう？
- ③ その被害を防ぐためにはどのようにしたらよいでしょう？

です。ぜひしっかりと考えて避難行動を取ってくださいね。

2. わざわざ避難する必要ってあるの？

「地震が起きても大手前高校は津波も来ないし、このまま教室にいてもいいよね」という人が時々います。

津波被害に関していえば、大手前高校は津波の浸水域には入っていません。しかし、大手前高校の本館は高層の校舎なので、上階はかなりの揺れが予想されます。建物自体は現行の建築基準法で定められている耐震基準を満たしていますが、教室の机や廊下にあるロッカーは地震の揺れで吹っ飛んでいく可能性があります。天井や壁の一部が剥がれ落ちたり、ガラスが割れたり、扉が歪んで動かしづらくなることも考えられます。

もし、今地震が起きたら…

まずは揺れから身を守り、揺れがおさまったら、安全なルートを通して安全な場所に避難しましょう。状態によっては校舎内に留まることが危険な場合もあります。まずはグラウンドに全員が避難して、



安否を確認する必要があります。グラウンドに安全に行くために、教室に掲示してある避難経路図は必ず確認しておきましょう。

3. 逃げるときに必要なことって何？

逃げることはとても大切です。少しでも「あぶない！」と思ったときにすぐに逃げる行動を取らなくてはなりません。しかし、闇雲に外に飛び出すのは危険です。落ち着いて行動しましょう。地震の場合は余震が起きる可能性もあります。頭を守ることが忘れずに。また、粉塵が舞っていたり、火災が起きる可能性もあります。口元をハンカチで覆ったり、マスクを着けて逃げるとよいですね。

4. 逃げたあとはどうしたらいいの？

グラウンドに出て、ひと安心…したい気持ちはわかりますが、まずは全員が避難できているか点呼を取って安否を確認します。その後、確実な情報を収集して、2次被害を起こさないよう行動します。

学校での避難訓練は、避難して全員の安否を確認したら訓練終了ですが、本当の災害が起こった場合はそこからまだまだ先があります。家族と連絡を取り、安否を確認し、家族との再開場所を決め、避難生活が続きます。場合によっては長い間学校に留まったり、徒歩で帰宅することが必要になるかもしれません。ふだんから家族と災害が起きたときについて話し合っておきましょう。その日家族がどこにいるか、スケジュールはどうなっているのかを家族全員が知っておくことも大切な防災スキルです。



↓ 静岡県が出している命のパスポートです。参考にしてくださいね

